

# 新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 専門教科「家庭」)

文部科学省

初等中等教育局

参事官（高等学校担当）付 産業教育振興室

教科調査官 山村 季代

## 1. 専門教科「家庭」の改訂のポイント

- 1-1 職業教科の改訂のポイント
- 1-2 専門教科「家庭」の改訂のポイント
- 1-3 専門教科「家庭」の目標の改善
- 1-4 指導計画作成上の配慮事項

## 2. 学習評価の改善の基本的な考え方

- 2-1 教科目標と観点及びその趣旨
- 2-2 専門教科「家庭」における〔指導項目〕
- 2-3 〔指導項目〕ごとの評価規準の作成
- 2-4 「単元の評価規準」の作成のポイント
- 2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

## 3. 学習評価の進め方

- 3-1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」
- 3-2 観点別学習状況の評価方法

# 1. 専門教科「家庭」の改訂のポイント

1-1 職業教科の改訂のポイント

1-2 専門教科「家庭」の改訂のポイント

1-3 専門教科「家庭」の目標の改善

1-4 指導計画作成上の配慮事項

# 1-1 職業教科の改訂のポイント

- 産業界で必要とされる資質・能力を見据え、産業教育において育成を目指す資質・能力を三つの柱に沿って整理
- 地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、社会や産業の変化の状況等を踏まえ、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応の視点から各教科の教育内容を改善

## 1. 教科・科目の全体構成

- 専門性の基礎・基本を一層重視するとともに、専門分野に関する知識と技術の定着を図る観点から科目の構成や内容の改善を図り、現行の8教科188科目から**8教科186科目**で構成。  
〔農業：30→30 工業：61→59 商業：20→20 水産：22→22 家庭：20→21 看護：13→13 情報：13→12 福祉：9→9〕
- 職業に関する各学科における原則履修科目は、現行と同様、各教科の基礎的科目と課題研究等の2科目。

## 2. 資質・能力の明確化

- 産業界で必要とされる**資質・能力**を見据え、各教科・科目の目標について、「知識及び技術」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の**三つの柱に沿って整理**。
- 資質・能力を構成する要素のうち、「倫理観」、「合理性」等は重要な要素として現行に引き続き明示するとともに、「**職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学ぶ**」、「**産業の振興や社会貢献**」、「**協働的に取り組む**」ことについて新たに明示。

## 3. 学習内容の改善・充実

- 地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、社会や産業の変化の状況等を踏まえ、**持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応**の視点から各教科の学習内容を改善。また、経営に関する指導を充実。
- 産業界で求められる人材を育成するため、「**船舶工学**」（工業）、「**観光ビジネス**」（商業）、「**総合調理実習**」（家庭）、「**情報セキュリティ**」（情報）、「**メディアとサービス**」（情報）を新設。

## 4. 各教科共通の記載事項

- 働くことの社会的意義や役割、現在の社会や産業全体が抱える課題の理解、職業人に求められる倫理観の育成などについて、各教科で指導すべき「**共通の内容**」として**各教科の原則履修科目（基礎的科目）に位置付け**。
- ①**主体的・対話的で深い学びの実現**、②障害のある生徒などに対する指導上の工夫、③言語活動の充実について、新たに各教科共通として記述。
- ①地域や産業界等との連携による実践的な学習活動等の実施、②総授業時数の10分の5以上の実験・実習への配当（商業を除く）、③実験・実習の際の安全への配慮や事故防止の指導、④学習の効果を高めるためのコンピュータや情報通信ネットワークの活用に係る規定について、現行と同様、各教科共通として記述。

# 1-2 専門教科「家庭」の改訂のポイント

- 地域の子育て支援や高齢者の自立生活の支援など少子高齢化への対応
- 食育の推進や専門性の高い調理師養成への対応
- 価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応
- グローバル化を踏まえた生活文化の伝承・創造への対応

## 1. 改訂の基本的な考え方

- 少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上と社会の発展を担う職業人を育成するよう学習内容等を改善・充実。

## 2. 学習内容の改善・充実

### (1) 子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実

- 保育や子育て支援について、子供の文化を含めて保育の基礎を学ぶ「保育基礎」と、その発展として、単に子供と触れ合うだけでなく、保育者の視点を踏まえた実習に重点を置いた「保育実践」に整理統合し、学習内容を充実。

### (2) 高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実

- 「生活と福祉」では、人間の尊厳と自立生活支援の考え方という項目を設け、認知症への理解を深めることを明示。また、高齢者への生活支援サービスの実習として、調理、被服管理、住環境の整備などの家事援助に加え、見守りや買物を新たに追加し、学習内容を充実。

### (3) 食育の推進や調理師養成など食に関する学習の充実

- 「フードデザイン」では、災害などの非常時を想定し、備蓄食の準備やそれを活用した調理ができるよう、災害時の食事計画についても扱うことを新たに明示。
- 「食文化」では、食文化と食育という項目を新たに設け、食文化の発展に食育が果たす役割を扱うことを明示するなど、食育の推進に関する学習内容を充実。
- 「総合調理実習」を新設し、調理師養成における大量調理やサービスに関する学習内容を充実。

### (4) ライフスタイルの多様化に伴う生活産業の発展に関する学習の充実

- 「生活産業基礎」に、ライフスタイルの変化と生活産業という指導項目を設け、社会の変化とライフスタイルの多様化に関する学習内容を充実。

### (5) 生活文化の伝承・創造に関する学習の充実

- 「生活産業基礎」に、伝統産業に係る項目を新たに追加し、現状と課題や今後の展望について扱うことを明示。

## 3. 学習指導の改善・充実

- 原則履修科目である「生活産業基礎」において、職業人に求められるマネジメントの重要性に着目した指導の工夫を図ることを新たに明示。

# 1-3 専門教科「家庭」の目標の改善

今回の改訂において、教科目標について、各教科共通に以下の点を改善

- ◎ 実践的・体験的な学習活動を通じて資質・能力を育成することを明確化
- ◎ 職業人に求められる倫理観に関する指導の充実
- ◎ 社会貢献や協働について新たに明示

## 職業教育に共通する目標の考え方

※中教審答申（平成28年12月）より抜粋

職業に関する各教科の「見方・考え方」を働かせ、**実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して**、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、**職業人に求められる倫理観**を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や**社会貢献**に主体的かつ**協働的に取り組む**態度を養う。

## 教科「家庭」の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

柱書き

(1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 **「知識及び技術」**

(2) 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

**思考力、判断力、表現力等**

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

**学びに向かう力、人間性等**

# 1-3 専門教科「家庭」の目標の改善

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方

衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、**協力・協働**、**健康・快適・安全**、**生活文化の伝承・創造**、**持続可能な社会の構築**等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること

# 1-4 指導計画作成上の配慮事項

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善により、質の高い学びを実現

## 第1章 総則 第3款 1(1)

第1款の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、**生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと**。

特に、各教科・科目等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、**知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したり**することに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

## 第3章 主として専門学科において開設される各教科 第3款 1(1)

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、**生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る**ようにすること。その際、**家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ**、専門的な知識と技術などを相互に関連付けてより深く理解させるとともに、**地域や社会の生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、計画を立案し、実践、評価、改善して新たな課題解決に向かう過程を重視した実践的・体験的な学習活動の充実を図る**こと。



## 2. 学習評価の改善の基本的な考え方

2-1 教科目標と観点及びその趣旨

2-2 専門教科「家庭」における〔指導項目〕

2-3 〔指導項目〕ごとの評価規準の作成

2-4 「単元の評価規準」の作成のポイント

2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

## 2-1 教科目標と観点及びその趣旨

学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」は作成されている

### 【高等学校学習指導要領 第3章 第5節 家庭「第1款 目標」】

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(高等学校学習指導要領 p.366)

### 【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨 <家庭>】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

(改善等通知 別紙5 p.7)

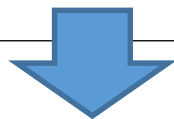
# 2-1 教科目標と観点及びその趣旨

各学校等において、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する

## 【高等学校学習指導要領 第3章 第5節 家庭「第2款 第1 生活産業基礎 1 目標」】

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。



(高等学校学習指導要領 p. 366)

## 【「第2款 第1 生活産業基礎」の評価の観点の趣旨(例)】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

## 2-2 専門教科「家庭」における〔指導項目〕

### 科目「生活産業基礎」における〔指導項目〕

- (1) 生活産業を学ぶに当たって
- (2) ライフスタイルの変化と生活産業
- (3) ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供
- (4) 生活産業と職業
- (5) 職業生活と自己実現

→ 職業教育を主とする専門学科においては、各科目における〔指導項目〕という。

## 2-3 〔指導項目〕ごとの評価規準の作成

【例】科目「生活産業基礎」（3）ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供

### (3) ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供

ここでは、生活を支援し、消費者が必要とする商品やサービスを提供するためには、様々なライフスタイルにおける消費者のニーズを的確に捉えることが必要であることを理解するとともに、その上で、生活産業に関わる身近な商品やサービスを例に取り上げて、市場調査と分析の方法、新商品やサービスの開発プロセス、商品やサービスを円滑に流通させ販売を促進する方法などについて考察し、工夫できるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため、次の①から③までの事項を身に付けることができるよう、〔指導項目〕を指導する。

- ① 消費者のニーズを的確に捉えることの必要性と、商品を企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や趣旨を理解し、関連する技術を身に付けること。
- ② 消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫すること。
- ③ ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むこと。

知識及び技術に関する内容

思考力、判断力、表現力等に関する内容

学びに向かう力、人間性等に関する内容

## 2-3 〔指導項目〕ごとの評価規準の作成

【例】科目「生活産業基礎」（3）ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供

学習指導要領 解説	(1)	(2)	(3)
	消費者のニーズを的確に捉えることの必要性和、商品を企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や趣旨を理解し、関連する技術を身に付けること。	消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫すること。	ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むこと。

〔指導項目〕ごとの評価基準（例）

〔指導項目〕ごとの評価基準 例	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	消費者のニーズを的確に捉えることの必要性和、商品を企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や趣旨を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。	ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

【観点ごとのポイント】

### ■ 知識・技術 ■

生徒が「～について理解している」かどうか、「～について身に付けている」かどうかの学習状況として表す。

### ■ 思考・判断・表現 ■

生徒が「～について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している」かどうかの学習状況として表す。

### ■ 主体的に学習に取り組む態度 ■

生徒が「～しようとしている」かどうかの学習状況として表す。

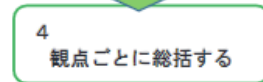
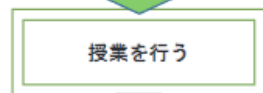
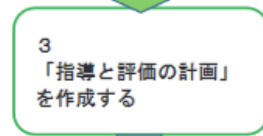
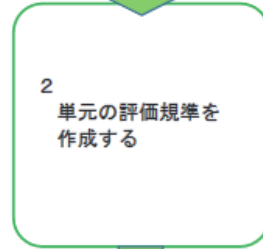
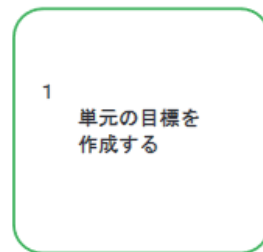
## 2-4 「単元の評価規準」の作成のポイント

- ① 年間の「指導と評価の計画」を確認  
↓
- ② 学習指導要領及び解説、「〔指導事項〕ごとの評価規準」の考え方を踏まえ、「単元の評価基準」を作成

※〔指導項目〕の一部を単元としたり、複数の〔指導項目〕を組み合わせて単元としたりすることも考えられる。

→生徒の興味・関心や進路，学科の特色に応じて各学校で工夫することが求められる。

### 評価の進め方

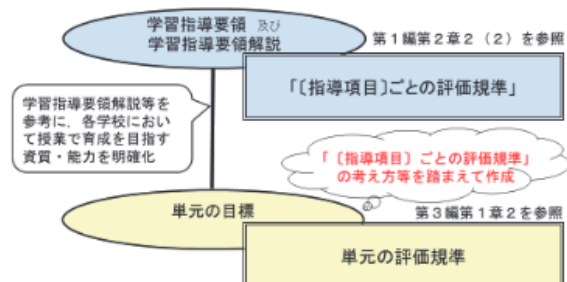


### 留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

#### 単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价（A, B, C）を行う。

## 2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

### 単元の評価規準作成のポイント

#### ■ 知識・技術 ■

学習の過程を通じた知識及び技術の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技術と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技術を習得したりしているかについて評価する。

文末を「～について理解している」、「～について身に付けている」「～に関連する情報を収集・整理している」として評価規準を作成することができる。

#### ■ 思考・判断・表現 ■

知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。

文末を「～について考察している」「～について工夫している」として評価規準を作成する。

#### ■ 主体的に学習に取り組む態度 ■

知識・技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価する。

文末を「～取り組もうとしている」として評価規準を作成する。



## 2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

### 【例】科目「生活産業基礎」（４）生活産業と職業

指導目 ごとの 評価規準 例	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴，関連する職業について理解しているとともに，関連する情報を収集・整理している。	生活産業に関連する職業に就くための課題を発見し，その解決に向けて考察，工夫している。	生活産業と職業について自ら学び，生活産業の更新や地域貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

### 単元名：多様な保育ニーズに対応した職業と求められる倫理観



単元 の評価規準 例	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ヒューマンサービスに関連した産業の種類や特徴，関連する職業について理解しているとともに，関連する情報を収集・整理している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒューマンサービスに関連する職業に就くための課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫している。</li> <li>保育従事者として，多様化する利用者のニーズやプライバシーに配慮したサービスの提供をするための課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫している。</li> </ul>	ヒューマンサービスに関連した産業と職業について自ら学び，特に保育に関するヒューマンサービス産業について職業倫理や規範意識を踏まえて，産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

## 3. 学習評価の進め方

3-1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

3-2 観点別学習状況の評価方法

# 3-1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、単元を見通して、観点別学習状況の評価をするために必要な記録を取ることになる。



## ・「指導に生かす評価」

学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う日常の学習改善につなげる評価（机間指導やワークシートなどを活用しつつ学習状況を確認する。A, B, Cなどの記録は、必ずしも必要としない。）

## ・「記録に残す評価」・・・●

観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価（A, B, Cなどの評価を行う）

※「参考資料」に示す各事例には、●を付して評価場面を示している。

時間	【ねらい】・学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	態	
6	<p>【ねらい】ファッション産業の仕組みや特徴について理解を深めることができる。（現場見学）【課題2,3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業（繊維・染色・アパレル販売など）と連携し、ファッション産業の仕組みや特徴の理解を深めるために現場見学を行う。</li> <li>繊維が原料からテキスタイル製品になるまでの過程を理解する。</li> <li>地域産業の特徴を生かした商品について分析し、その魅力や課題について理解を深める。</li> </ul>	●		●	<p>現場見学を通してファッション産業の仕組みや特徴について実際に見たり、聞いたり触れたりして理解を深めている。</p> <p>地域産業の歴史や商品の特徴や現在抱える問題について理解している。</p> <p>地域産業の特徴を生かした商品について興味・関心をもち、次の課題である商品開発・提案につなげることができている。</p> <p>ポートフォリオ</p>
7	<p>【ねらい】新聞記事から地域産業が抱える問題について読み取ることができる。【課題2,3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域産業（ファッション産業）に関わる新聞記事を読み、抱える問題を読み取る。</li> </ul> <p>《キーワード》 地域産業の特徴、産業が抱える課題</p>	●			<p>新聞記事を読んで、地域産業を担う専門性の高い技術をもつ職人の高齢化が進んでいる状況と、地域産業の継承、今後の発展のために現代の若者の力が必要であることを読み取ることができている。</p> <p>新聞要約</p>
8	<p>【ねらい】地域産業の課題と若手職人の活躍について理解することができる（研修）。【課題3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手職人が、地域産業とどのように関わり、商品提案し、世界に発信しているのか、さらに、今必要な地域産業力は何かを対談を通して聞き出す。</li> </ul>	●		●	<p>若手職人が地域産業の特徴を活用して、消費者ニーズに合った商品の提案をしていることに気付いている。</p> <p>地域産業の魅力や課題を分析・考察し、今後の産業の発展に向けて考えている。</p> <p>ポートフォリオ</p>
9・10	<p>【ねらい】これからのファッション産業と地域産業について考えることができる。【課題3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域産業に関わる商品調べ、考察をする。（価格・付加価値・販路方法・PRの仕方など）</li> <li>ハイテクノロジーやエコロジー素材の開発、SDGsを考慮した企業経営やライフスタイルが注目される今、これから求められる地域産業について考える。</li> </ul>			●	<p>地域産業に関わる商品調べ、特徴をまとめることができている。</p> <p>科学技術の発展は消費者の様々なニーズに対応した新商品を開発していることを学習し、「今だからこそ欲しい繊維」という視点で考え、提案することができている。</p> <p>エコロジー素材の開発やSDGsを考慮した企業経営の一端を学習し、消費者意識の変化に着目できている。</p> <p>商品提案のプレゼンテーション</p>

## 3-2 観点別学習状況の評価方法

### 評価方法例

#### ■ 知識・技術 ■

具体的な評価方法としては、授業中の発言、ワークシート等における記述、ペーパーテストの他、製作品などを活用することなどが考えられる。

#### ■ 思考・判断・表現 ■

具体的な評価方法としては、ペーパーテストの他、論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品の製作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用することなどが考えられる。

#### ■ 主体的に学習に取り組む態度 ■

具体的な評価方法としては、ワークシートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価などの状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。

# 国立教育政策研究所が作成した資料について

## 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料

### 第1編 総説

- ・平成30年改訂を踏まえた学習評価の改善
- ・学習評価の基本的な流れ

### 第2編 「〔指導項目〕ごとの評価規準」作成する際の手順

### 第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

- ・「〔指導項目〕ごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成
- ・学習評価に関する事例について

#### 事例1 **指導と評価の計画から評価の総括まで**

「生活産業基礎」 単元「ライフスタイルの変化に対応した地域産業とファッションとの関わり」

#### 事例2 **「知識・技術」「主体的に学習に取り組む態度」の評価**

「生活産業基礎」 単元「ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供」

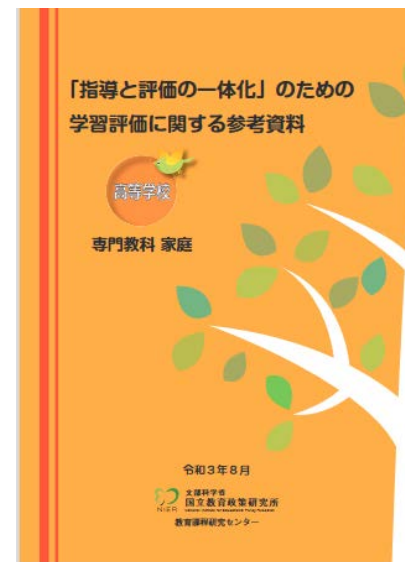
#### 事例3 **「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価**

「生活産業基礎」 単元「多様な保育ニーズに対応した職業と求められる倫理観」

公表時期：令和3年8月

公表方法：国立教育政策研究所ホームページ

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_katei\\_sen.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_katei_sen.pdf)



# 新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 専門教科「家庭」)

文部科学省

初等中等教育局

参事官（高等学校担当）付 産業教育振興室

教科調査官 山村 季代